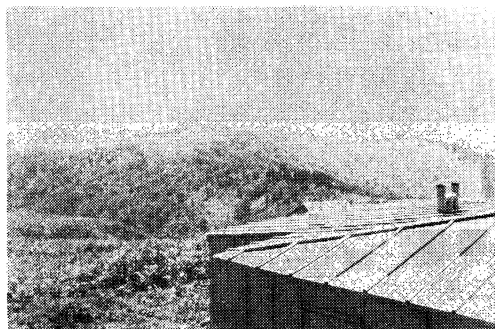


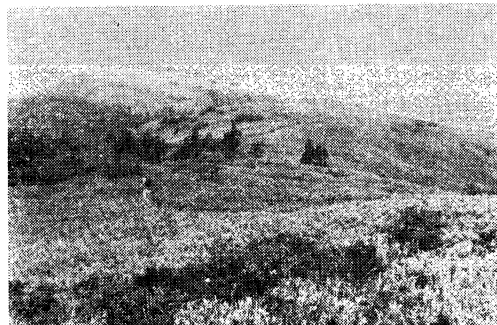
氷の山・戸倉コース植物採集記

(県下主要植物採集地案内作成ノート)

岩 谷 成 彦



氷の山、頂上より三の丸を望む



三の丸より氷の山頂上を望む。すぐ前にダイセン
キャラボクがみえる

兵庫県最高の山である氷の山の登山コースとしては、但馬側からの「氷の山越コース」と「東尾根コース」がよく知られているが、播磨側である戸倉からのコースは、山岳スキーのコースとして知られる程度で、あまり知られていない。従って氷の山の植物の記録も但馬側のそれであって、播磨側については殆んどない状態である。

最近、播磨側も戸倉からの林道が開発され地元波賀町も観光事業として登山コースを整備しているの、非常に登りやすくなってきた。

揖保川最奥の部落である宍粟郡波賀町戸倉から北へ戸倉峠の方に国道29号線に沿ってゆくと、宮の向というバス停がある。ここから国道をそれて、橋を渡り坂の谷国山林への林道に入る。はじめ川に沿って右岸を進むが、橋を渡り左岸に入り川と分れてからはやや急な上りとなる。林道の殆んど終点に近い所を「ヒエバタ」と呼んでいるが、ここはもう海拔1,000mである。氷の山へはここから尾根づたいに登る。

国道からヒエバタまでは約8 kmである。

昭和41年6月26日午前7時40分、波賀町戸倉の山根旅館を出発。藤本義昭先生運転の車に室井先生、安平和彦君と一緒に乗る。他の車に波賀町長をはじめ町の関係者が乗って、われわれの案内をしてくださる。

8時ヒエバタ着。車からおりて採集の支度をととのえる。このあたりは、ヤマボウシ、ミズナラ、イタヤカエデ、ウリハダカエデの雑木林である。カッコウがしきり

にない。ここより「三の丸」までは約3,500 mとのことである。

登山口と書いた立札の所からヒノキ林に入る。マルバフユイチゴ、ハスノハイチゴ、ギンリョウソウ、ホウチャクソウ、テリハミヤマガマズミがみられる。

間もなく伐採地に出る。ヤマナラシ、イヌザクラなどが少し残されているだけで、一面伐採されている。右側少し下の斜面はヒノキ林である。ヒカゲノカズラ、ノリウツギ、ヤマブドウ、チダケサンなどを見ながら登る。道はゆるやかな上りである。また、ヒノキ林に入る。ここにはギンリョウソウが多い。

ヒノキ林をぬけ、ウリハダカエデ、ウラジロノキ、ナナカマドなどの雑木林に入るが、間もなくミズナラの林となる。下にはネマガリダケが多くなる。ミズナラにミヤマノキンノブ、スギランがついているのが見える。ハウチワカエデ、ホホノキ、トチノキ、オオカメノキ、ハリギリも混っているが、ブナがだんだん多くなる。よくみるとブナにヤシヤビシヤクがついている。

ブナ林の下に密生するネマガリダケはきりはらわれており、上りもゆるやかなので登りやすい。このあたりのネマガリダケには花も残っているが大部分が実をつけている。室井先生をはじめ藤本先生、波賀町の人までもササの実の採集に忙がしくなる。

昨夜戸倉の宿で、宿の主人山根直太郎氏がこんな話をしていた。「毎年雪が消えると戸倉の人はスズコヌキとってネマガリダケのタケノコをとりゆくが、今年は

どうしたことかスズコが全然出なかったので、ササに花が咲くのではないかとうわさをしていた。ずっと以前に、この尾根ではないが、他の谷でそんなことがあり、ササの実がなったので、実をとって食べた。においはよいが、あまりうまいものではなかった。」

室井先生、われわれにササの実の入ったパンでも食わせてやろうと思ってか、しきりに採集している。

このあたりより左の谷の向うの尾根は黒々と木が繁っている。あの尾根は鳥取県との県境の尾根であるという。尾根より登山道まで兵庫県側は全部木を伐っているが、右の谷への斜面はまだブナの原始林が残されており、登山路に沿ってもスギやブナの大木が処々残されている。

再びブナ林に入る。ブナにまじりナナカマド、オオカメノキ、ホホノキ、ハリギリ、シナノキ、ウリハダカエデ、キハダ、ヨグソミネバリ、フウリンウメモドキ、ツルマサキ、ムラサキマユミ、ヒメモチ、タニギキョウ、ユキザサ、ツクパネソウ、チクセツニンジン、オオナルコユリなどがみられる。ヤマアジサイの花が美しい。

途中に「珍樹ふるさとの木」と立札を立てたシナノキの大木がある。木の下の方に大きな穴があいている。何故これを、ふるさとの木というのであろう。ノリウツギ、ソクズ、マルバフユイチゴ、キクムグラ、イワガラミ、サラシナシヨウマなどもみられる。

9時25分、道が2つに分かれる所で休む。このあたりシナノキが多い。山の人はこれをヒルカワと呼ぶそうである。

左へのネマガリダケの切りどおしの道は、新登山路として現在開拓中のものである。ここから三の丸までは約1,500mほどあるそうである。右への従来の登山路をとる。間もなく谷川がある。サワグルミ、オオカメノキの下にミヤマシグレ、ヤマソテツ、シラスゲなどがみられる。ブナにはオシャグジデンダ、ミヤマノキンノブがついているのがみられる。3つ目の谷川をわたるあたりスギの大木がある。これより下へゆくのが「殿下コース」と呼ばれるスキーコースである。

天然のスギ、ブナ、ホホノキ、コシアブラ、ハリギリなどの林をぬけるとネマガリダケだけの一大斜面となる。といってもネマガリダケは、われわれより背が高いのでネマガリダケしか見えない。今までとちがいが日当るので暑い、つまらない道である。原始林のなくなる所は海拔約1,300mの所である。

海拔約1,320mの所にナナカマドの大木が1本ある。町長がこの木に登れというので登ったら、今まで全然見えなかったササの原がゆるやかなスロープを画いて広々と拡がって見える。思わず感嘆の声をあげたら、われも、われもと木に登ってきて、ナナカマドの大木に人間

様が沢山になった。これも氷の山珍樹の1つであろう。

再びネマガリダケの中つまらぬ道を登ってゆく。ヒメズリハやオオニガイチゴの花が見られる。このあたりイヌツゲが多いが、葉のそりかえったマメツゲ型も見られるので、室井先生しきりに珍らしがっている。

10時35分、三の丸につく、海拔1,460mである。これまで林の中、ササの中と、眺望のない所ばかり登ってきたので、ここ三の丸に立つと、一の丸と呼ばれる氷の山の頂上をはじめ付近の山々がぐるっと見渡され、素晴らしい展望が楽しめる。特に氷の山の頂上は堂々とした姿で、ここより2の丸を経てゆく登山道を見せ、われわれを呼んでいるようである。三の丸より頂上までは約2,900mある。(前ページ写真右参照)

この三の丸には、ダイセンキャラボクの大木があり、付近にもかなり沢山見られる。但馬側からの登山路では最近あまりみられなくなっているのに、ここには沢山あるようである。そのほか、イヌツゲ、オオニガイチゴ、マンサク、クロソヨゴ、シナノキなどもみられる。

藤本先生、安平君は早速野冊をとり出し標本づくりをはじめ。町長も手伝っている。

折角ここまで来たのだから頂上まで行こうということになり出発する。

尾根伝いの道であるが、三の丸をおりた所に小さな湿地があり、スギの下に、ミズゴケ、ショウジョウバカマイズルソウ、ミヤマシグレなどが見られる。ネマガリダケの群生を伐り開いた尾根道には次のようなものが見られる。ブナ、オオカメノキ、タムシバ、クロモジ、リュウブ、コシアブラ、ツノハシバミ、ナナカマド、マンサク、インカグマ、ホツツジ、オオバニガイチゴ、イ、ノリウツギ、ヒメモチ、ヤマソテツ、チゴユリ、ヒカゲノカズラ、イワナンシ。

二の丸をおりた所にも湿地があり、スギ林の中に、リュウブ、ノリウツギ、ナナカマド、オオイタヤメイゲツ、バイケイソウ、ミズゴケ、ミヤマシグレ、ユキザサ、白花ショウジョウバカマ、エンレイソウ、ツクパネソウ、チゴユリ、タガネソウ、シラネウラボ、ヤマソテツ、エゾリンドウ、ハスノハイチゴなどがみられる。

このエゾリンドウは分布上最南端のものである。

いよいよ最後の上りである。ネマガリダケの中にクロツル、シナノキなどがあるが、ダイセンキャラボクも多い。アカモノがあらわれると間もなく頂上である。

12時10分、やっと頂上につく。1,510.1m。兵庫県の最高峰である。加古川から来て昨夜但馬側の福定で泊り、今朝登ってきたというハイカーが約10人ほどいた。

頂上三角点のヤグラの上に立つと、すぐ下に但馬側のコースの起点である大久保、福定の家々、鉢伏高原、因幡側からのコースの起点である春米が見える。

しばらく休み、古生沼にゆく。わが国高山性湿原群落の南限型といわれているものである。ツマトリソウの白い花が盛りである。イワナンシ、エゾリンドウ、ヤチスゲ、アカモノ、モウセンゴケ、バイケイソウ、マイズルソウ、ホツツジ、マルバマンサク、トキシソウ、ヒカゲノカズラ、ノギリラン、イヌツゲ、ヤマドリゼンマイがみられ、周囲を背の低いスギ、ブナ、クロンヨゴ、ナナカマド、ネマガリダケなどがとりまいている。

12時40分、頂上を出発。13時半三の丸につき、それからは休み休み下り、車のところについたのは15時半頃。

兵庫生物第5巻第1号に、県下主要植物採集地案内6として、氷の山について書いたが、このとき、戸倉コースからは登ったことも、下ったこともなかったのに、登山案内により一応まとめてみた。今度はじめて登ってみて様子がだいぶ変わっているので、修正のため採集記録を書いたが、今回の採集行については、町長をはじめ室井先生や多くの人のお世話になったことを深く感謝する次第である。

従来氷の山といえば、北の方からのコースより考えられなかったが、このように南の方播磨側から登れるようになったのは、国道29号線が整備されたことと波賀町が登山コースの整備に力を入れているからである。

戸倉部落の神社の後のスギ林の中には、オチフジ、シヤク、クロタキカズラ、ヤグルマソウ、ザゼンソウ、ギンバイソウ、テンニンソウ、ミヤマイラクサ、ハナイカダ、ウリノキ、ヤマソテツなどが見られ、波賀町にはこのほか、坂の谷、宮の後国有林をはじめ、赤西、音水原始林など興味ある所が多い。

便利になった奥播磨の山々、谷々を調査されるようおすすめする次第である。

(註) 三の丸について

波賀町長の案内のとおり、戸倉側から登った1,460 mの所を、三の丸と書いたが、登山案内によっては、そこを二の丸といいそれより西にある1,255.4 mの三角点を三の丸といっているものもある。